

令和5年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立和土小学校）

学校番号 091

【樣式】

目指す学校像	学校教育目標「未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成」の具現化に向け、児童、保護者、地域、教職員の「一人ひとりがキラリと光る」を目指す。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

（重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可）番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1 学力向上	<p>〈現状〉</p> <p>○学習指導要領やさいたま市小学校教育課程編成要領等に基づき、教育課程を編成し、実施している。</p> <p>○基礎的・基本的な学習内容の理解に向け、日々取り組んでいる。</p> <p>○学習に真面目に取り組んでいる。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○学ぶことの楽しさを十分に味わわせ、学びに対する関心・興味を高める必要がある。</p> <p>○シン・G I G Aスクール構想として取り組んでいる、ICTを活用しながら、「教師が教える授業」から「児童が自ら気付き、学びとる授業」へ転換の推進が求められている。</p> <p>○自己肯定感を高めながら、粘り強く学習に取り組めるようすることが大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の学び合いを大切にした、分かりやすい授業の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童個々に応じた学習支援 ②めあての明確化と振り返りの時間を確保 ③学習内容の定着と自信をもたせるためにICTを活用した練習問題の計画的な取組 ④授業改善を図るために教育委員会による学力向上カウンセリング研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の学校評価No11「粘り強い学習」で肯定的評価92%以上、No12「わかりやすい授業」で肯定的評価93%以上になったか。 ②学力向上カウンセリング研修の受講後、授業改善に取り組めたか。 ③めあての明確化と振り返りの時間を確保した授業に取り組むことができたか。 	<p>○具体的な方策を進めるとともに、学力向上カウンセリング研修、小学校体育授業研究会、金融経済教育等を通して職員の学びの機会が増え、指導力の向上につながった。○学校評価の児童No11では約94.9%で2.6p上昇、No12では約93.6%で0.7p上昇、保護者No4では約98.3%で3.3p上昇となった。</p>	A	<p>【課題】 自ら学ぶ児童を育てる。 【改善策】 ○さらなる児童理解に努め、児童一人ひとりに応じた指導と支援の推進 ○児童と教師がともに学び合う授業の推進○学習規律の徹底</p>
	<p>○学ぶことの楽しさを十分に味わわせ、学びに対する関心・興味を高める必要がある。</p> <p>○シン・G I G Aスクール構想として取り組んでいる、ICTを活用しながら、「教師が教える授業」から「児童が自ら気付き、学びとる授業」へ転換の推進が求められている。</p> <p>○自己肯定感を高めながら、粘り強く学習に取り組めるようすることが大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して学ぶ楽しさを実感できる学習の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ①「じ・し・や・ク」の学びを取り入れた授業の実施 ②学年に応じてICTを活用した授業や家庭学習の取組 ③ICTを効果的に活用する授業改善のための教職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の学校評価No14「ICT等の活用」で肯定的評価98%以上になったか。(12月末) ②ICTを活用した家庭学習に年間10日以上取り組むことができたか。 	<p>○学びのポイント「じ・し・や・ク」の理解を深め、学年に応じて取り組んできた。○ICT活用の事例紹介や活用方法の研修が進み、学校評価の児童No14では約98.7%で2.6p上昇となった。○高学年を中心にタブレットの持ち帰りも進み、家庭学習への活用も進められた。○「タブレットの毎日の活用」が3年生以上の平均で約62.9%となり、昨年の約2倍となった。</p>	A	<p>【課題】 授業の工夫を一層推進する。 【改善策】 ○学びのポイント「じ・し・や・ク」を一層活用した授業の推進○ICTを活用した学びの推進</p>
2 安心・安全	<p>〈現状〉</p> <p>○クラス替えがなく、お互い分かり合えている様子が見られる。</p> <p>○児童一人ひとりに声をかけ、目を配り、安心できる信頼関係の構築に努めている。</p> <p>○日々の校内巡回と計画的な安全点検を実施している。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○良好な友達関係を築き、継続できるようにすることが大切である。</p> <p>○保護者との連携を大切にし、共通理解を図る必要がある。</p> <p>○児童の得意分野を伸ばし、自信を育てる指導を行い、自分の夢に向かって努力する心を養う。</p> <p>○安全に対する意識を向上させ、事故防止に備えるとともに、万が一事故発生した際には適切な行動がとれるようにする必要がある。</p> <p>○木々が多くあるため、計画的な樹木剪定が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのよさを認め合う豊かな人間関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童一人につき年2回の面談 ②日常生活におけるコーチングを取り入れた児童との面談 ③児童に対する積極的な称賛の言葉がけ ④和土小スマイルプロジェクトの着実な実施 ⑤年2回の個人面談の実施と、学習予定期表に学級の様子の掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の学校評価No1「学校へ行くのが楽しい」で肯定的評価92%以上になったか。 ②コーチングを取り入れた面談が実施できたか。 ③児童の学校評価No15「先生の称賛」で肯定的評価95%以上になったか。 ④和土小スマイルプロジェクトが実施できたか。 	<p>○和土小スマイルプロジェクト等具体的な方策を着実に進めてきた。年2回以上の面談等にも取り組むとともに、具体的な称賛にも努め、児童に寄り添った指導や支援に努めてきた。○児童の学校評価No1「学校へ行くのが楽しい」では約87.9%で2.4p低下。No15「先生の称賛」では約93.0%で3.1p低下。</p>	C	<p>【課題】 児童とのふれあいを一層大切にする。 【改善策】 ○児童とのコミュニケーション（会話やふれあい等）の一層の推進○凡事徹底・率先垂範○自立と挑戦を促す指導の推進○毅然とした指導の推進</p>
	<p>○児童に安心と潤いを与える教育環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に安心と潤いを与える教育環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ①日々の校内巡回と計画的な安全点検の実施・速やかな対応 ②AED、エピペン、不審者対応等、安全に関する教職員研修の実施 ③教育委員会との連携や、職員による計画的な樹木の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ①管理職の毎日の校内巡回ができたか。 ②校内巡回や安全点検の結果から、修繕等が必要な箇所に対して、2日以内の対応ができたか。 ③計画的な樹木の剪定を行い、管理ができたか。 ④安全に関する研修を6回以上できたか。 	<p>○管理職による毎日の校内巡回や計画的な安全点検が実施できた。○機会を捉え、児童の安全に関する研修(AED、エピペン、不審者対応等)も進められた。○修繕が必要なところについては、2日以内の対応もできた。○樹木剪定は、管理職や職員によって進めてきたが、高い場所については、今後も教育委員会に粘り強く相談し、対応していきたい。</p>	B	<p>【課題】 安心安全な施設の維持管理を進める。 【改善策】 ○着実な校内巡回と職員による安全点検の実施○児童の安全に関する研修の実施○教育委員会と連携した樹木の剪定の推進</p>
3 地域と歩む学校	<p>〈現状〉</p> <p>○学校運営協議会を各学期に一度開催できている。「あいさつ」の大切さを共有している。</p> <p>○開校150周年の思いを共有している。</p> <p>○異校種(保・中・高)間の交流ができている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○和土地域で育てたい子ども像を共有することが大切である。</p> <p>○地域で子どもを育てる考えのもと、小・中一貫教育を推進する必要がある。</p> <p>○教育活動を保護者や地域の方々に公開し、児童の姿を見せていただく機会を増やす必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和土地域で育てたい子ども像の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ①和土地域で育てたい子ども像を共有するための熟議 ②異校種(保・中・高)間の交流の着実な実施 ③小・中一貫教育の取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①和土地域で育てたい子ども像を共有できたか。(1月末) ②小・中一貫教育の取組に工夫・改善ができたか。 	<p>○2回の学校運営協議会で熟議も進み、和土地域のアイデンティティの醸成を推進した。また、児童も参加でき、直接思いを伝えることができた。○新和小学校と事前交流を含め、合同で自然の教室が実施された。</p>	B	<p>【課題】 和土地域のアイデンティティを育てる。 【改善策】 ○育てたい子ども像の具現化に向けた方策の検討○新しい小・中一貫教育の推進○地域の方々や施設との連携の推進</p>
	<p>・児童・保護者・地域の方々・教職員の心に残る開校150周年記念事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者・地域の方々・教職員の心に残る開校150周年記念事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①相互に進捗状況を確認し、開校150周年記念事業の着実な実施 ②学校だよりに和土小の歴史の記事を掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童・保護者・地域の方々・教職員の心に残る開校150周年記念事業に取り組めたか。 ②学校だよりに和土小の歴史の記事を掲載することができたか。 	<p>○実行委員会の協力の下、150周年記念式典等の諸行事を無事終えることができた。節目を祝うことができて嬉しい、心に残る一年になったという声が児童や保護者・地域の方々から届いている。○学校だよりに和土小の歴史の記事を掲載でき、保護者や地域の方々に支えられてきたことを広く紹介できた。</p>	A	
4 教職員の資質向上	<p>〈現状〉</p> <p>○自尊感情、自己肯定感を高める学習指導に関する学校課題研究に取り組んでいる。</p> <p>○小規模校としての業務改善を進めている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○学びの変化やICTの活用、児童対応等に対して、指導力の向上が求められている。</p> <p>○ICTを活用した業務改善が求められている。</p> <p>○成長が実感できる研修が求められている。</p> <p>○対話に基づく受講奨励を通して、主体的な教師の学びに取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な教師の学びの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICTを活用した授業の管理職による1単位時間の授業観察 ②教職員同士の年2回以上の授業参観 ③対話に基づく受講奨励による、主体的な教師の学びの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICTを活用した授業の管理職による1単位時間の授業観察が学期1回以上できたか。 ②教職員同士の年2回以上の授業参観ができたか。 ③受講奨励に基づく研修に取り組めたか。 	<p>○管理職による1単位時間の授業参観を計画的に進めてきた。○1単位時間の職員同士の年2回以上の授業参観を推進した。○職員と相談し、受講奨励に基づく研修を進めてきた。また研修会に参加した職員から研修内容の周知や伝達が行えた。</p>	B	<p>【課題】 S S S Pの活用を推進する。 【改善策】 ○S S S Pの理解と活用の推進○校内研修を刷新し、職員の学び合いの推進○受講奨励のさらなる推進</p>
	<p>・ワークライフハーモニーをつなげる業務改善の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフハーモニーをつなげる業務改善の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①T O D Oリストの作成など見通しをもった業務の推進 ②ICTの活用や他校の好事例を活用した業務改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員の月平均在校時間の合計を-5%となっているか。 ②業務改善を3つ以上行ることができたか。 	<p>○教職員の月平均在校時間の合計が昨年度同程度になっている。約100時間少なくなった職員もいる。○業務は3つ以上進めた。ICTを活用して、在校時間を減少させた職員もいる。</p>	B	<p>【課題】 持続可能な業務への改革を推進する。 【改善策】 ○ICTを活用した業務改善の推進○職員同士の協力体制の推進</p>

学校運営協議会による評価

実施日令和5年2月6日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等